



現場から（最近のニュースから）

ファクトチェック



アメリカで大統領選を控えて行われているテレビ討論会で、正確。誤り。根拠が不十分。背景説明が必要——。など、第三者がデータを検証するファクトチェックが行われていると、朝日新聞の天声人語に出ていました。

10 月 3 日付け朝日新聞の天声人語に、副大統領候補のテレビ討論会でのファクトチェックについて出ていました。対決したのは、民主党のウォルズ氏と共和党のバンス氏でしたが、どちらも個性が強く、弁舌にたけているということです。天声人語の記者が見た米紙ニューヨーク・タイムズのオンライン中継は、10 人以上の記者が同時進行でファクトチェックを流し続けたということです。候補者が発言した直後に「判定」が付き、理由も示されるということです。特に目についたのが「誇張されている」の判定だったそうです。ウォルズ氏が「トランプ氏は過去 15 年間、連邦税を一切払っていない」と述べると、すぐに「誇張」が付いたということです。「2016 年に 750 ドルの連邦所得税を払っている」などの説明もついたということです。バンス氏の「住宅を買えなくなったのは何百万人もの不法移民のせいだ」という主張も誇張とされたそうです。

発言した直後に「判定」が出るのは、大統領選挙のような場合は役立つようですが、人の話はいつも話す人の私見が入って当然ですから、いちいち「ファクトチェック」されたら、対話が成り立たないでしょう。天声人語は最後に「便利だが、頼りすぎると自分で真偽を判断できなくなるのか。政治からうそや誇張が消え、ファクトチェックが不要になる日は来ないのか。」とありました。

うそも方便と言われるように、世の中では、正しいから何でも良いというわけではありません。相手ためになるうそは、多少は許されるでしょう。政治にうそは不要ということで、ファクトチェックをされるのですが、本当に良い政治家かどうかをそれで分かるのでしょうか。政治からうそや誇張が消えることが、ほんとうに良い政治になるのでしょうか。私たちは、いつも「これが正しい」というものを持っていて、それに合わせて判断しています。「うそをついたらだめ」「誇張してはだめ」というのが、ファクトチェックをして判断したい理由でしょう。しかし、「これが正しい」と確信していることは、ほんとうに正しいのでしょうか。

「小事に拘わりて大事を忘るな」ということわざがあります。小さなことにこだわって本来の目的を忘れてはいけないという戒めですが、細かいことに固執して、本来の重要な目的や大切なことを見失わないようにという警告を含んでいるということです。この言葉は、目的や目標に焦点を合わせ、大局を見失わないようにすることの重要性を教えているということです。（ことわざ・慣用句の百科事典より）ファクトチェックに追われて、ほんとうに必要なことを逃してしまう場合があるでしょう。「大局を見失わない」ために、何が必要でしょうか。人間が生きていく理由、いましていることにある意味、大局を見るためにどこから始めればよいのか、いっしょに見てみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください